



Noh
OHTSUKI NOH THEATRE



HYAKUMAN

大槻文藏と読み解く

能の世界

令和五年度 大槻能楽堂 自主公演 能の魅力を探るシリーズ



SAICYOU ZAKURA

撮影：前島写真店 前島吉裕

8/26(土)

能

盛久

恐之舞

浅井文義

対談

「三代目観世元雅の作風」山中玲子×大槻文藏

6/17(土)

能

地蔵舞
百万

法楽之舞

武富康之

狂言

茂山忠三郎

対談

「観阿弥・能という劇の成立」

松岡心平×大槻文藏

4/22(土)

能

名取川
西行桜

素囃子

梅若万三郎

狂言

善竹彌五郎

対談

「世阿弥から禅竹へ受け継がれる幽玄の論理」

村上 湛×大槻文藏



MORIHISA

撮影：吉越 研

大槻能楽堂

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7

TEL.06-6761-8055

【公式サイト】noh-kyogen.com

主催：公益財団法人大槻能楽堂

公演パンフレット 季刊発行予定 (詞章・あらすじ等を掲載)



令和五年度大槻能楽堂自主公演
能の魅力を探るシリーズ

大槻文藏と読み解く能の世界

第707回 4月22日(土) 13:30開場 14:00開演

対談 「世阿弥から禅竹へ受け継がれる幽玄の論理」
村上 湛 × 大槻 文藏

狂言 名取川

シテ 旅の出家 善竹彌五郎
アド 名取の何某 善竹 隆平
後見 上吉川 徹

比叡山で受戒した出家は、僧名を二つ授けられたが、物覚えが悪いので両袖に書いてもらい、二つの名を様々な曲節に乗せて謡いながら帰る。ところが、大きな川を渡ろうとして深みにはまった拍子に名を忘れたばかりか袖の文字も消えてしまった。出家は、そこへ通りかかった男の名字を聞いて、名を取られたと詰め寄る。——
中世流行の曲節や川の名を連ねた謡で舞う小舞を善竹彌五郎と次男・隆平の息の合った父子共演で楽しみたい。

休憩

能 西行桜 素囃子

シテ 老桜ノ精 梅若万三郎
ワキ 西行上人 福王茂十郎
ワキツレ 花見人 福王 和幸
ワキツレ 同行者 福王 知登
ワキツレ 同行者 喜多 雅人
アイ 能力 善竹 隆司
笛 杉 市和
小鼓 久田舜一郎
大鼓 山本 哲也
太鼓 三島元太郎
後見 赤松 禎友
青木 健一

地謡 大槻 文藏
上田 拓司
山本 博通
上野 雄三
浦田 保親
武富 康之
大槻 裕一
梅若 志長

(終演予定時刻16時45分頃)

都・西山に隠棲している西行法師の庵室は、今が花の盛り。今年は見を禁じると触れさせざるが、それでも噂を聞きつけた人々が大勢訪れる。仕方なく受け入れたものの、内心はうんざりしている西行は、せっかくの閑居が妨げられるのは桜の罪だと、つい歌にして愚痴をこぼす。すると、その夜、老木の朽ちた空洞から白髪桜の精が忽然と現れて、西行の歌の真意を問うてきた。——
名手梅若万三郎を迎え、地頭に大槻文藏(文化功労者・人間国宝)、太鼓は三島元太郎(人間国宝)というこの上もない共演。閑雅で奥深い幽玄の境地が堪能できるに違いない。

第709回 6月17日(土) 13:30開場 14:00開演

対談 「観阿弥・能という劇の成立」
松岡 心平 × 大槻 文藏

狂言 地蔵舞

シテ 僧 茂山忠三郎
アド 宿の亭主 善竹 忠重
後見 山口 耕道

都から西国巡りに向かう東国の僧が宿を借りようとするが、廻国修行の者を当地に泊めてはならないという大法(厳しい掟)を記した高札が立てられていた。僧は知らぬふりで宿を乞うが案の定断られ、考えた末に自分の笠を一晚だけ預かってもらう約束を取り付ける。——
まんまと宿の亭主に気に入られて酒まで馳走になり、近隣に見つからぬように、僧(茂山忠三郎)が舞う小舞、特に地蔵菩薩が酔う態で舞う地蔵舞が見どころ。

休憩

能 百万 法楽之舞

シテ 狂女百万 武富 康之
子方 百万ノ子 武富 友香
ワキ 里人 福王 和幸
ワキツレ 従者 廣谷 和夫
アイ 釈迦堂門前ノ者 善竹 忠亮
笛 野口 亮
小鼓 清水 皓祐
大鼓 白坂 保行
太鼓 上田 悟

後見 大槻 文藏
赤松 禎友
多 久島利之
齊藤 信隆
上田 拓司
上野 雄三
山本 正人
齊藤 信輔
大槻 裕一
水田 雄昭

(終演予定時刻16時50分頃)

春の嵯峨清涼寺。大念仏の日、吉野の男が、奈良西大寺のあたりで拾った幼子を連れて訪れる。貴賤群集する境内では、女物狂(おんなものくるい)が面白く念仏の音頭を取ると評判をとっていた。百万と名乗るその女物狂は、夫に死別して行方知れずの我が子と巡り合うために、こうして人目に顔をさらして歩いていたのだ。——
南北朝期に活躍したとされる伝説の曲舞の名人百万と、鎌倉期に大念仏を創始した円覚上人の生涯が重なる。武富康之と次女友香の父娘が、温かな陽ざしの中で繰り広げられる芸尽くしと、母子再会の奇蹟の物語を紡ぐ。

第711回 8月26日(土) 13:30開場 14:00開演

対談 「三代目観世元雅の作風」
山中 玲子 × 大槻 文藏

能 盛久 恐之舞

シテ 平盛久 浅井 文義
ワキ 土屋三郎 福王茂十郎
ワキツレ 従者 福王 知登
ワキツレ 輿昇 喜多 雅人
ワキツレ 輿昇 中村 宣成
アイ 下僕 茂山千三郎

笛 杉 市和
小鼓 林 吉兵衛
大鼓 河村眞之介

後見 大槻 文藏
赤松 禎友
上野 雄三

地謡 片山九郎右衛門
上田 拓司
浦田 保親
片山 伸吾
武富 康之
大江 信行
齊藤 信輔
大槻 裕一

(終演予定時刻16時20分頃)

源氏方に囚われた平盛久は、土屋三郎によって鎌倉へ護送されることになり、最期の望みとして篤く信心する清水の観世音へ参詣し、花盛りの都をあとにする。やがて、鎌倉で幽閉されていた盛久に、処刑は明日との通告が下される。もとより覚悟の盛久は、声高らかに「観音経」を誦誦し、しばしまどろむ間に不思議な夢を見た。そして、斬首の座についた盛久の身に、奇蹟は起こる。——

盛久の役は能面をかけず、物語は現在進行形で劇的に展開する。実力者浅井文義のシテと片山九郎右衛門の地頭がタッグを組んで、繊細に力強くドラマを描き出す。

(石淵文恵)

大槻能楽堂
自主公演能パンフレット『おもて』
4月~6月公演の詞章・解説掲載の
春の巻は4月中旬発売予定!
大槻能楽堂事務局にて(公演日当日は会場)、
1冊1,000円(税込)で販売致します。
*大槻能楽堂自主公演能チケット提示で、1枚につき1冊まで、割引価格の700円(税込)でご購入頂けます。

入場料金 ※友の会:割引特典あり		
席種	前売	当日
S席	6,500円	7,500円
A席	6,000円	7,000円
B席	5,500円	6,500円
学生(B席)	3,300円	4,300円
U-25 25歳以下(B席)	席数限定 1,100円	B席 2,100円 立ち見 800円

チケット発売日 ※当日券は開演の1時間前より販売		
公演	友の会	一般
4/22 西行桜	2/10	2/22
6/17 百万	4/7	4/17
8/26 盛久	6/16	6/26

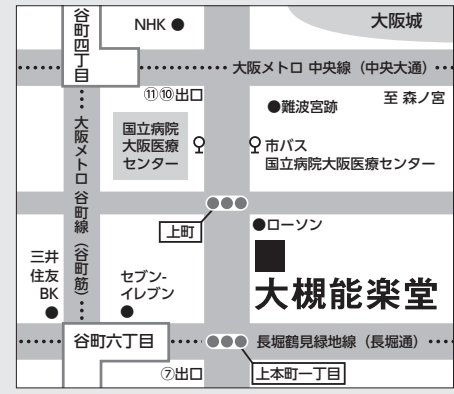
「大槻文藏と読み解く 能の世界」
7公演セット券 発売中(4/21まで)

会場 大槻能楽堂
大阪市中央区上町A番7号

- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、⑩号出口を出て南へ約300m。
(⑩号出口にエレベーター有)
または谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、⑦号出口を出て北へ約350m。
(⑦号出口にエレベーター有)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き、「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き。

チケットご予約・ご購入

- 大槻能楽堂ホームページ(発売日10:00~)
<https://noh-kyogen.com/ticket/>
- 大槻能楽堂 事務局(11:00~16:00 不定休)
(TEL) 06-6761-8055



※駐車場はございません。
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程・終演予定時刻等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいませよう、お願い申し上げます。
※本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録音は、ご遠慮いただきますようお願いいたします。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に応じた「感染拡大防止対策」を実施しております。